

当院では以下の国際共同研究に協力しています

血管芽腫(Hemangioblastoma)に対する

ガンマナイフ治療の遠隔成績に関する後ろ向き研究

【研究目的】

血管芽腫 (hemangioblastoma) は成人の後頭蓋窩に好発する良性腫瘍で、原発性脳腫瘍のうち1.7%を占めるに過ぎない。しばしば嚢胞を形成し、小脳失調や脳幹症状、そして閉塞性水頭症による頭蓋内圧亢進症状で発症することがある。血管芽腫には孤発性のものと、遺伝性疾患であるvon Hippel Lindau (VHL) 病に付随するものがある。特にVHLに付随する血管芽腫は多発性のことが多く、治療後も他の部位から新たな発生を認め、治療に難渋することも少なくない。

治療の第一選択は手術摘出であるが、脳幹部やその近傍にあるものや手術で全摘出できなかったもの、また多発性のものに対しては手術のみの対応では難しい例がある。ガンマナイフ治療は、定位放射線治療の一つで、脳動静脈奇形、聴神経腫瘍、転移性脳腫瘍などの頭蓋内病変に対する治療として確立しており、血管芽腫に対しても後ろ向き研究で良好な成績が報告されている。しかしいままでの報告は全て30例前後の小規模な研究で、適応の決定、至適線量、合併症の頻度などに関し、臨床統計学的なevidenceは十分とはいえない。

本研究は日本と北米のガンマナイフサイトが協力し、大規模な後ろ向き研究により長期の治療成績をあきらかにし、今後の血管芽腫の治療指針を作ることが目的である。

【研究方法】

研究事務局が作成したエクセル調査票に、身体所見、検査所見、治療法、その後の転帰などを担当医が記載します。調査票は研究事務局に E メールに添付され、集計されます。これにより、血管芽腫の治療、転帰などの実態を明らかにします。この研究のために使われる病気や身体の様子、生活の様子についての情報などは全て完全に匿名化し、個人が特定されない状態で本研究終了後も適切に管理、保存します。それらは本研究目的以外には使用しません。

【個人情報保護に関する事項】

氏名や住所、生年月日などの情報は、調査票には記載されないため、個人を特定されることはありません。この研究で利用される個人情報は、行政機関個人情報保護法に基づき適正に管理し、研究に利用させていただく患者さんの個人情報も厳重に管理いたします。

【倫理的配慮】

この研究は倫理委員会で研究計画書の内容および実施の適否などについて、科学的および倫理的な側面が審議され、承認されています。また研究計画の変更、実施方法の変更が生じる場合には適宜審査を受け安全性と人権に最大の配慮をいたします。

【お問い合わせ】

この研究の対象となる患者さんでご協力を希望されない方は、下記担当医師に連絡をいただければ、調査票作成、研究事務局への登録は行いません。

この研究に関するお問い合わせは、下記担当医師にお尋ねください。担当医師に聞きにくいことや、この研究の責任者に直接お尋ねされたいことがある場合には、下記の研究事務局まで書面でお問い合わせください。

担当医師

北日本脳神経外科病院

脳神経外科 佐藤光弥

この臨床研究全体の責任者は以下の通りです。

研究代表者、事務局 (USA)

叶 秀幸

ピッツバーグ大学 脳神経外科

Suite B400, UPMC Presbyterian, 200 Lothrop Street

Pittsburgh, PA 15213

Email: h-kano@fj8.so-net.ne.jp